# 大怪獣決闘　ガメラ対バルゴン（1966）

GAMMERA VS BARUGON

**メディア** 映画
**ジャンル** ファミリー　特撮
**製作国**　日本
**色彩**　Color
**時間**　101分
**初公開日** 1966/04/17
**公開情報** 大映

**【解説】**

前作『大怪獣ガメラ』から半年後、ガメラを宇宙に追放したＺプランのロケットが隕石と衝突、自由の身となったガメラは地球に戻り黒部ダムを襲撃、電気エネルギーを吸収するとさらに別の熱エネルギーを求めて何処かへ飛び去った。一方、第二次大戦中ニューギニアに出征していた平田という男は、大戦中現地で発見した大きなオパールをジャングルの奥地の洞窟に隠していた。足が不自由な彼は知り合いの小野寺、川尻、そして弟の圭介にそのオパールを取りに行かせる計画を立て、３人は現地に向かう。原住民の止めるのも聞かずジャングルの中に入った３人は数日間ジャングルの中をさまよい、ついに洞窟の中でオパールを発見。だが、その直後川尻は猛毒のサソリに刺され死亡。さらにオパールの一人占めを狙った小野寺はダイナマイトで圭介を洞窟に閉じ込め、一人帰国した。帰国の航路の途中、偶然治療用の赤外線がオパールに放射され、その中からトカゲの様な生物が生まれた。それはオパールではなく怪獣バルゴンの卵だったのだ！　赤外線の影響で急激に成長したバルゴンは神戸に上陸、舌の先から出す冷凍液で街を凍らせ、背ビレから放射する虹色の光線で自衛隊のミサイル基地を壊滅させた。バルゴンの進攻によって起きる火災に導かれてガメラが出現。大阪城の近くでガメラとバルゴンの戦いが開始されるが、バルゴンの冷凍液の前にガメラはあえなく氷結し敗退する。一方、原住民に助けられていた圭介は原住民の娘カレンとともに帰国。カレンの村の伝説からバルゴンの性質がわかった。水で身体の細胞が溶けてしまうバルゴンを、カレンが村から持参したダイヤモンドにレーザー光を照射した光で琵琶湖に誘導し湖底に沈めようとする作戦が開始され、作戦は上手くいくかにみえた。その時、欲に取り付かれ、すでに平田夫婦を殺害していた小野寺が、作戦に乱入しダイヤモンドを強奪してしまう。しかし、その直後彼はダイヤモンドごとバルゴンの舌に巻かれ食われてしまった。次にバルゴンの虹色光線を巨大な鏡でバルゴン自身めがけて反射する作戦が実行された。作戦は一応は成功しバルゴンは重傷を負うが、絶命させるまでには至らなかった。そのころ、凍り付いていた大阪の街の氷が溶け始めた。ガメラは再び活動を開始し、琵琶湖畔にいるバルゴンの元へと飛来した。もはや、なす術の無くなった人類の前で、二大怪獣の決闘が再び開始された！

前作のヒットを受けて製作された第２作、本作のみ監督はベテランの田中重雄が担当し、湯浅憲明は特技監督にあたっている。本作は昭和ガメラシリーズ中唯一ドラマ部分から子供を廃し、大人向けを狙った作品となっている。また、“大怪獣決闘”というサブタイトルがついているが、ストーリーはバルゴンと人類の攻防が中心となっていて、ガメラとバルゴンが対決する場面は時間的には短い。しかし、シネスコの横長画面を活用した４つ足怪獣同士の決闘は怪獣映画全体を見ても珍しく（本作のガメラは主に四つ足形態で活動している）、木下忠司の音楽がこの画面にマッチして、２大怪獣の戦いの重厚さを十分に描き出している。なお、一般的には本作からガメラが人類の味方になったかのように言われているが、本作を見る限りでは、ガメラは闘争本能のおもむくまま闘っているだけで、また人類もガメラを恐怖の対象として見ている。結果的にバルゴンにとどめを刺し、その後どこかへ飛び去って行ってしまうため、そのような説が生まれてしまったのであろう。本作は１００分という長尺のため、テレビで放送される際は内容が相当カットされてしまう。また、画面がテレビサイズにあわせてトリミングされると、ガメラとバルゴンの対決シーンでは両怪獣の鼻先だけが延々と映っているという画面になってしまうので、本作の魅力を堪能するには是非とも劇場で、でなければノーカット＆ワイド版のビデオかＬＤで鑑賞することをご推薦する。

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

【登場怪獣】ガメラ／バルゴン

【クレジット】

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | 田中重雄 | |
| **製作** | 永田雅一 | |
| **企画** | 斉藤米二郎 | |
| **脚本** | 高橋二三 | |
| **撮影** | 高橋通夫 | |
| **特撮監督** | 湯浅憲明 | |
| **美術** | 柴田篤二 | |
| **編集** | 中静達治 | |
| **音楽** | 木下忠司 | |
| **特技・美術** | 山口熙 | |
| | 井上章 | |
| **特技・合成** | 金子友三 | |
| **特技・撮影** | 藤井和文 | |
| **特技・操演** | 恵利川秀雄 | |
| **特技・助監督** | 阿部志馬 | |
| **ナレーター** | 若山弦蔵 | |
| **出演** | 本郷功次郎 | 平田圭介（パイロット） |
| | 江波杏子 | カレン（現地娘） |
| | 夏木章 | 平田一郎（圭介の兄） |
| | 藤山浩二 | 小野寺 |
| | 早川雄三 | 川尻（あわじ丸船員） |
| | 見明凡太朗 | 自衛隊司令官 |
| | 伊東光一 | 警視総監 |
| | 高村栄一 | 大阪府知事 |
| | 菅井一郎 | 松下医師 |
| | 藤岡琢也 | 佐藤（あわじ丸船医） |
| | 北原義郎 | 天野教授 |
| | 若松和子 | 平田さだ江（一郎の妻） |
| | 谷謙一 | 李（宝石ブローカー） |
| | 原田該 | 岸本（圭介の元上司） |
| | 北城寿太郎 | 自衛隊副官 |
| | ジョー・オハラ | 酋長（カレンの父） |
| | 星ひかる | あわじ丸船長 |
| | 山根圭一郎 | 観測員 |
| | 加川東一郎 | 観測員 |
| | 浜口喜博 | 操舵員 |
| | 森矢雄二 | アナウンサー |
| | 紺野ユカ | 小野寺の情婦 |
| | 阿部脩 | あわじ丸船員 |
| | 中田勉 | 林（天野教授の助手） |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.